

おわりに

県議2期目もあとわずかとなりました。平成十八年に、大好きだった教員生活と決別してから十三年・時の経つのは早いです。

きっかけは福井豪雨。災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災エリアの復旧マネジメントに当たつたのです。河川能力を上げたり自主防災組織を編成したり、やるべき」ことが頭から離れず…。

また教育でも、日頃感じている課題が教育委員会に共有されないストレスがあり、「直接訴え質す議員に」という蛮行…いや挑戦…そう、挑戦の道を選んだ次第。

私の所属するNPO法人福井災害ボランティアネット(略して災ボラ)の仲間たちも「地域の防災力向上」に関して同じ問題意識があつたので、「是非」と背中を押してくれました。そのうえで、「どういう立ち位置の議員を目指すか」を議論しました。

当時は民主党政権で私は教員出身、夫も会社員で労組所属ではありました。災ボラのリーダーが自民党県議だったこともあり、「防災をやるんだから無所属で偏りなく」と、あつさり決まりました。

無所属ですから「党議拘束」なし!

「是々非々で発言」がむいていふとも言われました。…確かに。

細川かおり県政報告

第45号



一般質問：教育

福井の「教育大綱」の理念は「福井の将来を担う人づくり」です。でも今、福井は人手不足。特に、中小企業の人の手不足が深刻な状態ですが、片や、引きこもりや若年無業者も多く、囁き合つていません。

国は「人材力強化」のため「社会人基礎力」と「リカレント教育」に入れると「その1」「社会人基礎力」は、中でも「他者の関わりの力」がポイントですが、昔と違つて子どもの数が減り、テレビやゲームに没頭する今日、放つておいたのでは育み難い要素です。子供たちが夢中でやるゲームは、「殺す」とか「勝ち上がる」内容が多く、感化される」とがとても恐ろしい。

「他者の関わりの力」育成には、「大勢で遊ぶ」とが一番です。例えば、ケンカ。子供は「自分が考えているように、相手も考えている」と思いがちなのですが、ケンカをする」と、「相手は自分と違う考え方をするのだ」と、身を持つて学びます。ケンカ

第十八次民主議会も今議会選挙前1か月間は新聞折り込みができて、複数で育てば「甘噛み」を覚えますが、一匹だけを可愛がつて育てたのでは、囁み方の加減ができるだけです。ただ、今は昔のように「リーダー格のお兄さんが他の子や小さい子の遊びのモフルを育む」といったことがほとんどないので、放つたらかしで遊ばせておくだけでは「弱い者いじめ構図」が出来てしまします。教員やスクールサポートが遊びを見守り、適切にアドバイスを行う必要があります。

★ ラジオ「丹南FM79.1」
「県議会夢通信」
3月23日(土)午後4時～
(再) 24日(日)午前10時

【その2】リーマンショック後の就職難の時代、何十社採用試験を受けても全部だめだつたとか、なんとか雇つてもらえたけれど、非正規や低賃金でブラック、とても勤め続けられなかつたとか、現状に挫折した若者がたくさん出ました。今年齢で言うと、これからを担う30代です。

かれらはまた、新学力観にもどづいた「ゆとり教育の世代」でもあります。「自分の考えを持ちそれを表現する」という教育が強調されてきたのに、社会に出たらむしろ忍耐力や協調性が求められる…そのギャップは大きかつた」とでしょう。ですから、「この世代に苦しんでいる「若者無業者」が多いのは、彼らだけのせいだけではないと私は考えています。

さらに、変化の多い時代であり、人生何度でもやり直せる環境が必要です。

今、教員の働き方改革として、業務の負担減を図るうとされています。これは同時に、教員が子ども達に向き合つ時間を生み出せるわけですから、私は大いに期待しています。是非とも大ナタを振るつて行事を精選し、子どもたちの「社会人基礎力」を育んでいただきたいと、県に強く求めます。

これまで、純無所属の大先輩である市川房枝先生の精神が受け継がれた「女性と政治センター」で勉強させていただいたり、故長島忠美さん(元山古志村村長)らとともに全国災害ボランティア議員連盟を設立し、事務局長として全国400名以上の仲間と活動したりしています。もちろん、超党派の議連です。

さて、県議会に臨むにあたり、まず考えたのが「一人でも舐められずに仕事ができるか」ということです。やる」とは、「調査議会に行かせていただいたのは、「女性議員を増やすべし」と判断くださつた方々のおかげだと思つております。感謝です。

目標は「論客」、県庁のベテラン行政マンでも耳を傾ける「論客」ことです。もし頑張つても仕事にならないようなら、どこかの政党や会派に入れていただこうと、勉強し、質問力を磨く」です。

も考えていました。でも幸い今のところ、無所属のまま、論客めざし努力中です。

県政報告をお読みいただき、ありがとうございます。
時々「読んでるよー」とお声をいただくと
とても嬉しくて、すく励されます。

細川かおり県政報告 H31.2-3
発行：福井県議会議員 細川かおり
事務所：越前市村国1丁目2-11
TEL・FAX 42-5888

房枝先生の精神が受け継がれた「女性と政治センター」で勉強させていただいたり、故長島忠美さん(元山古志村村長)らとともに全国災害ボランティア議員連盟を設立し、事務局長として全国400名以上の仲間と活動したりしています。もちろん、超党派の議連です。(会長：谷公一衆議院議員、副会長：若松かねしげ参議院議員、泉ケンタ衆議院議員他)

福井豪雨であふれた川も、ようやく上流の改良が話し合われるようになりました。DVや虐待対策もようやくスポットが当たり出したところまだ道半ばです。今後も頑張りたいと願つております。

人口減少は一様に起きるのではなく、人口の移動、再配置を伴つて急激に起きていています。東京一極集中が問題となつていていますが、大都市への移動だけではなく、地方の中であつても、人口が集まる所と減少が著しい所の差や移動が大きくなっています。

一般質問：地域の縮め方・しまい方

例えば、不便なうえ積雪などの居住条件にハンディのある山間地では、鳥獣害被害がひどく高齢者が好む農作も縮む一方、さらに、勤めに出る若い人はより便利なところに新居を構えます。そのようなところは、どこまで地域を維持できるのでしょうか。地域の活性化と言つても、実際それができるのは数ある日本の山間地集落の中のほんの一部にすぎず、大多数は閉じざるを得ないのが現状です。

【越前市 U 地区】
3軒在住
ご高齢の女性がお二人、「目も当てられない」と、朽ちた空き家を見て嘆いておられました。



【南越前町 S 地区】2軒在住。朽ちた空き家が散在。



越前加賀海岸
国定公園

は、8号線沿い・305号線沿いの
景観に課題があります。

まず、見晴らしの良いところに派手な観光売店の廃屋が建つており、あたりの景観を壊しています。

さらに、越前水仙が鳥獣害被害もあって激減しています。イノシシが水仙の球根の下にいるミニマズなどを掘り起こして食べるのに、檻をかけたところ、「景観を壊す」との理由で撤去させられたと聞きました。

景観を守りたいのか守る気がないのか、はなはだ不思議です。また、今シーズンは暖冬の影響もあって花が咲かず、出荷量も大幅に減少しているようです。
県は「広域的な景観形成を市町と一緒になつて推進していくので、空き家の撤去、ビュースポットの整備など計画が市・町からあれば、対応していきたい」と答えましたが、市町から言わぬくとも、県から積極的に働き掛けることを求めました。

団塊の世代と言われる戦後の日本を発展させたエネルギー・シユな方々がお元気なうちに、集落コミュニティを閉じる方策、それも幸せに閉じる方策「集落じまい」を考えるべき時代が来ていると感じます。福井は街中から離れるごとに荒れ果てた異様な光景があちこちにある・・・そんな将来はぞつとします。

「集落じまい」の基本は、時間をかけて、山里を美しく仕舞い、次世代に美しい福井を残すために、そろそろ方策を考えるべきと県を促しました。

一般会計は前年比
3.3%

新年度予算案（骨格予算）

知事選挙を控えた年は、最低限必要な経費で編成する「骨格予算」です。

例年より小規模で、選挙後の 6 月補正で、選出された首長の意向を反映させた事業などを「肉付け」します。

熊本地震災害でのがれき処理。
分別がすごく大変(T_T)でした



【南越前町 S 地区】往時は 20 軒ほどあった地区ですが、夏場お 1 人が住むだけで、冬場は無人です。お宮さんまで朽ちているのがショックでした。



こうした集落の終末は、「他の街に移って通いで家の世話や農業をする」、「財産を処分して他に移る」というならいい方で、「世話する人がそのうち来なくなる」とか、「移住してすべてが放置される」となると、荒廃した状況になるわけです。

今までに、こうした地域が、特に山間地域で、静かに増えてきています。

私の住む集落も現在 12 軒で、次の代には片手以下。でも「美しく縮めよう！」と、今年から模索とチャレンジを始めます(^^)/

一般会計	4,633 億円
特別会計	782 億円
企業会計	383 億円
計	5,798 億円

